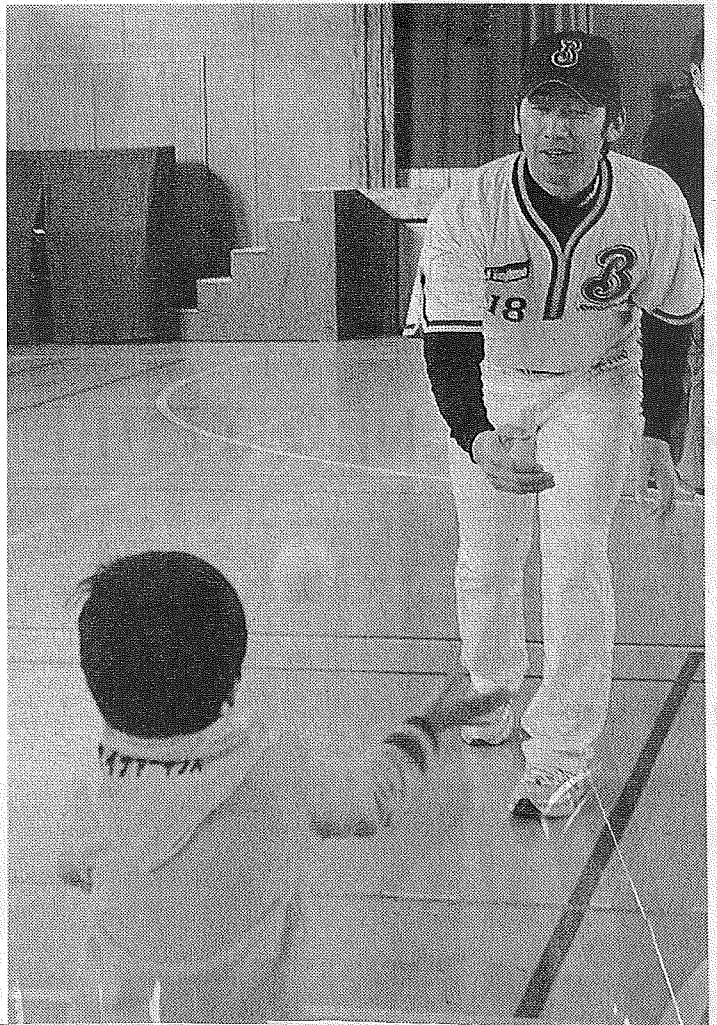


外で安全に遊べる場を



子どもたちとキャッチボールをする横浜の三浦投手
— 横浜市金沢区の文庫小学校

時間が決められていて、線量計をずっと持ち歩かないといけない。今日は思いっきり遊べて、楽しかった」と笑顔を見せた。

(深沢 剛、写真も)

「近々優勝少年に誓う」

①三浦は横浜DeNAで迎える新シーズンに「自分たちも新しく生まれ変わらなければ」と意気込んだ。目標は「とにかく勝つこと」。自主トレでは、「ウォーミングアップ代わりだ」「毎朝、山登りをして鍛え直すという。」

今年で21年目。「国吉も小林もまだ若いし、夢を持っている。鍛えれば鍛えるほど力になる。とんとん走らせないと」と後進の育成にも意欲を見せる。

キャッチボールの手ほどきをした少年に「優勝は何回あるの」と聞かれ、苦笑いながらも「一回だけ。でも近々、もう一回優勝するよ」と笑顔で誓った。

福島第一原発事故で遊び場を失った子どもたちを招待したスポーツ教室が7日、横浜市金沢区の市立文庫小学校で開かれた。プロ野球・横浜DeNAの三浦大輔投手をはじめ、トップ選手らが講師として集結。子どもたちは元気いっぱい汗を流した。

三浦ら講師でスポーツ教室

福島の子どもたち招待

から保護者も含めて約100人を昨年末から横浜に招待。アスレチックトレーナーの佐藤千可生さんがさまざまなチームに声を掛け、教室を企画した。

この日は、3歳から13歳までの約40人が、同校の体育館で三浦投手と「ナックル姫」として知られる女子プロ野球選手の吉田えり投手とキャッチボール。三浦投手は「相手のことを思いやってボールを投げるのが大事」とアドバイスした。

その後、同校の児童約40人が合流し、J2横浜FCの元選手公文裕明さんとともにミニゲームでグラウンドを走り回ったり、パナソニック女子陸上競技部の吉川美香選手や中村仁美選手と一緒に追いかけっこを楽しんだりした。

同NPO法人の池田正則さんは「子どもたちが外で遊べないのはぶぶん。安全な遊び場をつくってあげることが大人の責任」と強調。郡山市から参加した小学4年生橋本一紀君(10)は「1日に外で遊ぶ

放射線物質への不安などから外で遊べなくなった子どもたちを元気づけようと、NPO法人「横浜教育支援協会」が福島県福島市、郡山市など